

IV 平成 25 年度の主要な事業動向

1 市町村立図書館等を介したサービスの状況

(1) 協力貸出、市町村立図書館間の相互貸借

25 年度の県内図書館等への協力貸出数は、図書 17,151 冊（前年度比 98.6%）、CD などの録音資料 1,531 点（前年度比 708.9%）の合計 18,682 冊・点であった。24 年度に試行を開始した録音資料の協力貸出が、25 年度から本実施となり、貸出点数を増やす要因となった。

なお、県内市町村及び東海・北陸ブロック域内の各図書館同士の相互貸借図書のうち、愛知県図書館を経由して運ばれた数は、41,144 冊（前年度比 101.1%）であった。

(2) 遠隔地返却制度

愛知県図書館で借りた資料を地元の図書館で返却できる遠隔地返却制度は、24 年度から本実施している。対象自治体は、東三河地区（豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村）、西三河地区（岡崎市、碧南市、西尾市、高浜市、幸田町）、知多地区（半田市、常滑市、南知多町、美浜町、武豊町）で、25 年度の利用は 2,516 冊・点（前年度比 100.7%）。

(3) 市町村立図書館への支援

「あいちラストワン・プロジェクト」は、資料を県内の図書館が協同して保存していくための事業である。県内で 1 図書館のみが所蔵する資料を希少資料と定義し、資料が将来にわたって確実に保存され利用できるよう取り組むことになった。愛知県図書館が 24 年度に策定した「希少資料保存要綱」に基づき 25 年 1 月に試行を開始した。26 年 3 月末までに参加した図書館は、37 市町村の 38 館と県図書館の計 39 館であった。

市町村立図書館支援の一環として、職員を研修講師として派遣した。25 年度は、県内で実施された図書館や団体が主催する研修会等へ 13 名（前年度 19 名）を講師として派遣したほか、市町村立図書館との情報交換のため延べ 29 名（同 43 名）の職員を派遣した。派遣者数の合計は 42 名（同 62 名）であった。

(4) 大学図書館、学校図書館等との連携

名古屋大学、名古屋市立大学、南山大学の図書館と愛知県図書館の間で、18 年 5 月から開始した定期搬送便の実証実験は、大学図書館側の物流体制についての検証を目的として 25 年度まで継続した。搬送便を使用した公立図書館から大学図書館への貸出は 496 冊（前年度比 77.4%）、借受は 255 冊（同 79.2%）で、前年度を大きく下回った。8 年間の実証実験の結果を踏まえ、26 年度からは、名古屋大学及び名古屋市立大学の図書館との間で定期搬送便の運行を続けることとなった。

また、愛知県図書館は、東海地区図書館協議会の「資料相互利用協定」参加の大学図書館との間で 365 冊の資料を貸し出し、62 冊の資料を借り受けた。文献複写については、大学から 1 件の依頼を受け、10 件を大学へ依頼した。

高等学校を中心に、学校図書館への支援サービスを引き続き実施した。高等学校及び特別支援学校への協力貸出数は 6 校 422 冊であった。

(5) 数値目標の達成状況

25 年度のサービス計画では、前年度に続き、特に重点を置いて取り組むサービスの一つとして「市町村立図書館等との連携による県域への図書館サービスの拡充」を掲げ、その目標値を、市町村立図書館等への協力貸出数と市町村立図書館等で返却された遠隔地返却数の合計 21,300 冊・点（前年度から 6%増）とした。25 年度は 21,198 冊・点（前年度比 105.4%）となり目標はほぼ達成した。また、市町村立図書館への職員の講師派遣や助言活動、意見交換などのための訪問は、前年度から 5%増の 65 人を目標としたが、24 年度を下回る 42 名に終わった。

2 来館者サービスの状況

(1) 入館者、貸出、レファレンスサービス等の状況

25 年度の入館者は 614,901 人で、前年度に比べ 5.9%減少した。1 日平均では 2,196 人となる。21 年度から 5 年連続で入館者数が減少している。

資料の個人貸出点数（図書、AV 資料）は、533,859 冊・点で前年度より 0.7%の減少であるが、1 日平均では 1,907 冊・点で前年度（1,906 冊・点）並みである。図書の貸出が前年度より 5,472 冊（1.2%）減少したのに対し、AV 資料の貸出は前年度より 1,976 点（2.5%）増加したが、これは

25 年 2 月の AV 室での館内視聴廃止後、視聴ブースがあった場所に書架を増設して開架 CD の数を増やした効果と考えられる。

レファレンス件数は目標を前年度比 2% 増の 39,700 件としたが、37,981 件で前年度比 97.6% となり、目標を下回った。自分で調べようとする人を支援するためのパスファインダー「調べ方ガイド」を 21 年度から作成しており、現在 21 種類を配布中である。この「調べ方ガイド」について、新規追加 3 点との目標に対し新たに作成したものは 2 点であったが、発行後年数が経過したものを 4 点改訂した。

貸出中資料の予約は、18 年 3 月にオンライン予約を開始して以来大幅な増加を続けていたが、6 年目を迎えた 24 年度から横ばい傾向が見られるようになり、図書館窓口での受付と合わせた 25 年度の予約件数は前年度比 95.7% の 28,861 件と減少に転じた。なお、予約件数全体に占めるオンライン予約の割合は 19 年度の 37.6% から 25 年度は 64.2% にまで増えている。

(2) 児童に対するサービス

児童図書の貸出冊数は、前年度比 98.9% の 86,967 冊であった。

「冒険」「アートを楽しもう」「家族」など 2 か月ごとにテーマを変えて関連図書の展示と貸出を行った。また、夏休みには、自由研究や読書感想文に役立つおすすめ本を小学校低学年・中学年・高学年に区分して別置き、よく利用された。

発行物では、新着図書を紹介する『新しく入った本』（月刊）、おすすめ本を紹介する『じどうしつだより えほん』『同 ものがたり・ちしきの本』（季刊）のほか、対象別おすすめ本リスト『知識の本 小学校 1・2 年生向け』、読み聞かせ活動をしている方に役立ててもらおう『おはなし会で読んだ本』（季刊）を発行した。

おはなし会は、午前を幼児向け、午後を小学生向けとして、年間 23 日 46 回行った。これとは別に、8 月 6 日と 7 日に夏のおたのしみ会、12 月 26 日に冬のおたのしみ会を行い、読み聞かせ、パネルシアター、折り紙工作などのほか小学生向けでは実験や工作も行った。

(3) 障害者に対するサービス

25 年度に作成した録音図書 DAISY（デージー）の数は 60 タイトルで、そのうち既蔵テープからデータ変換したものは 43 タイトルであった。

視覚障害者への対面朗読は、利用者数が延べ 202 人（前年度比 74.3%）、対応した朗読者数が延べ 158 人（同 76.7%）、朗読時間数が 301 時間 10 分（同 84.1%）であった。

視覚障害者資料の貸出数は、自館資料は 967 タイトル（同 103.8%）と増加し、他施設の資料を提供した数もダウンロード 316 タイトルを含め 5,539 タイトル（同 122.7%）と引き続き伸びている。また、自館資料の他施設への貸出も 640 タイトル（同 86.4%）あった。更に、当館が加入している視覚障害者等への情報提供ネットワークシステム「サピエ」には、点字・録音図書の施設間相互貸借のための書誌データベースのほか、一種の電子図書館の機能もあることから、利用者個人の直接利用もサポートしており、25 年度は新たに 5 人が登録した。

心身障害者への郵送貸出の数は、886 点（同 97.7%）であった。

(4) 各コーナーの状況

ア 地域資料

愛知県の人・事物について書かれた資料、県内行政刊行物、その他愛知県に関する資料の幅広い収集をめざし、25 年度末現在、地域資料として図書 71,786 冊、雑誌 1,291 タイトルを所蔵している。そのうち 3 階の地域資料エリアには図書 34,912 冊を配架している。

イ ティーンズコーナー、ビジネス情報コーナーなど

ティーンズコーナーでは、利用者からおすすめ本の POP を募集する企画「てこぼん」で、25 年 5 月に優秀作を選ぶ「てこぼん大賞」を初めて実施した。

各コーナーの資料配置状況は次のとおり。

場所	コーナー名	和書(冊)	外国語図書(冊)	合計(冊)	備 考
3 階	大活字	2,019	0	2,019	
	ティーンズ	5,841	778	6,619	17 年 3 月設置
	多文化サービス	438	4,201	4,639	18 年 3 月設置
4 階	ビジネス情報	3,969	8	3,977	17 年 3 月設置

ウ 国連資料

22年度の国連寄託図書館の指定解除後も、それまでに寄託を受けた国連資料は引き続き当館で利用に供しているが、そのうち文書(ドキュメント)・公式記録の閲覧は26年2月25日をもって終了した。

3 電算システムの更新と新しいサービス

(1) 第4期システムの運用開始

26年3月に電算システムを更新し、第4期システムの運用を開始した。クライアント/サーバ方式の第3期システムは19年3月の使用開始から7年が経過し、機器の老朽化に伴う故障の発生やセキュリティの脆弱さが問題となるとともに、この間のインターネット技術の著しい進展への対応や、遠隔地の県民に対するサービス機能の充実が強く求められていた。

新しいシステムには、富士通の大規模図書館向けパッケージ「iLisfiera(アイリス・フィエラ)」を採用した。これは、クライアント端末以外のサーバ機器を外部のデータセンターに設置するクラウド型システムで、ブラウザ上で動作するウェブアプリケーション型の図書館システムである。クラウド型のシステムとすることにより、セキュリティレベルの高さと災害への強さを確保し、サーバ管理の効率化、電力・空調費用の削減を実現した。

また、ホームページには運用支援サービス Ufinity for public(ユーフィニティ・フォー・パブリック)を採用し、スマートフォンに対応したページを用意するとともに、引き続き携帯電話向けページも運用している。

(2) 新しいサービス

電算システムの更新に伴い、利用者が館内OPACやウェブOPACからパスワードを使ってログインする「Myライブラリ」(旧「マイページ」)を充実させた。これまでの貸出中圖書の予約、利用状況の確認に加え、新しく提供を始めたものには、貸出期間延長機能、興味を持った著者や分類、キーワードなどを登録することで必要とする新着資料情報をメールで受け取ることができる「SDI」(新着資料お知らせサービス)、蔵書検索結果から任意の資料リストをウェブ上に作成できる「My本棚」機能がある。

また、26年4月から、ナクソス・ジャパン社との契約による音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」の提供を開始した。

なお、26年4月から、来館して利用カード申込みができる人については居住地の制限をなくす一方、愛知県内に在住、在勤・在学の人を対象に、郵送での利用カード申込み・交付を可能とし、来館しづらい県民へのサービス向上を図った。

(3) 利用者用インターネット端末の運用改善

所蔵資料からは得られない、文献やレファレンス等に関する各種情報を入手して図書館資料を補完するため、館内にインターネットを閲覧できる端末を設置している。26年2月までは2階に2台、3・4階に各3台と分散して配置しており、利用の際はカウンターで申込書への記入が必要で、使用時間や予約順番の管理は窓口の職員が行っていた。電算システム更新を契機に、8台の端末を全て2階新聞・雑誌部門のカウンター前に集約し、新たに用意した利用管理専用端末で図書館利用カードを使って利用者自ら使用端末や時間の予約ができるシステムを導入した。

4 インターネットを利用したサービスの状況

(1) アクセス状況

ホームページのトップページへのアクセス数(553,901回で前年度比98.0%、ただし2月までの年度累計の比では102.5%)、蔵書検索ページのアクセス数(291,656回で前年度比112.2%、2月までの比101.8%)については、当館のシステム更新作業のため2月26日から3月13日までの16日間、ホームページの運用を停止していた影響を除けば、前年並みの利用があった。横断検索「愛蔵くん」に参加している施設は、前年度と同じく、県図書館と県内48市町村の図書館、1公民館図書室、3専門図書館であるが、横断検索のアクセスは285,727回(前年度比85.1%、2月までの比87.1%)であった。携帯サイトの総ページビューは93,330ページ(前年度比71.5%、2月までの比73.1%)で、スマートフォンやタブレット端末の普及により引き続き減少傾向にある。

(2) 地域資料のデジタル化の充実

当館が所蔵する貴重な地域資料の電子画像は、「絵図の世界」「絵はがきコレクション」「貴重和本デジタルライブラリー」の3コレクションとしてホームページに掲載し、高精細画像で見る

ことができる。「貴重和本デジタルライブラリー」については、貴重和本整備チームが引き続き書誌データ整備作業を進めており、25年度には緊急雇用創出事業基金事業を活用してデジタル化した資料から32点を追加し、85タイトル301冊を公開している。

5 資料の収集

(1) 図書の収集状況

25年度は、合計21,123冊の図書を受け入れた。その内訳は、購入が和書17,607冊、洋書126冊、計17,733冊。寄贈が和書3,220冊、洋書55冊、計3,275冊。貸出文庫用図書及び県産業労働部産業労働政策課からの管理区分の変更などによる受入が115冊であった。購入による受入は18年度から21年度にかけて21,000冊程度であったものが、22年度以降は資料費の削減により年々減少し、25年度は17,733冊となった。こうした状況にあっても、地域の文化や仕事を支える資料を積極的に収集し、県立図書館として地域資料を重点的に充実させることに努めた。

(2) 新聞雑誌の状況

購入雑誌については技術系雑誌や専門誌の継続維持に努めた。地域の新聞として利用が多い『新愛知』の縮刷版を、明治21年発行分から順次購入することにした。また、県内の市町村立図書館等に寄贈を呼びかけて、『週刊朝日』等のバックナンバーを収集した。予算面で厳しい状況が続いているが、資料の充実を図っていくため寄贈受入を積極的に進めている。

(3) AV資料の収集状況

25年度は、映像資料ではDVD294点、録音資料ではCD345点を受け入れた。購入・寄贈の別では、購入472点、寄贈167点である。DVDについては、24年度末に館内視聴廃止に伴い除籍したレーザーディスク及びテープ劣化が進むビデオカセットの代替資料の購入を前年度に引き続き進めた。CDについては、幅広い分野からできるだけ満遍なく収集するとともに、劣化が進むカセットテープの代替資料の購入にも留意した。

6 図書館サポーター

25年度に「おはなし会サポーター」として登録された方は16名で、毎月第1日曜日と第3土曜日に読み聞かせや紙芝居などを行っていただいた。そのうちの2回は、絵本を使わずに語り聞かせるストーリーテリングのみの「耳で楽しむおはなし会」であった。

破損・汚損した図書の補修を行う「資料補修サポーター」には、2名の方に登録していただいた。補修作業の習熟度により、できる範囲で補修作業にあたっていた。

7 図書館の催し物

図書館を知ってもらう活動として、企画展示・講演会等の開催に意欲的に取り組んだ。資料の展示を大小合わせて33件企画し、関連する講演会・上映会等のイベントを6回開催した。うち、従来の図書館利用者以外の方々に来館してもらう良い機会となる外部の団体、機関との共催や協力事業は、10件であった。

展示関連イベントのうち、当館では初めての開催となったビブリオバトルには春・秋2回合わせて95名の入場者があった。名画鑑賞会は、これまで、人気の高い作品では満席となる場合もあったため、25年度からは、混雑の緩和と平日にしか来館できない人にも便宜を図ることとして同一作品を日曜日と木曜日に上映するようにしたところ、年間の延べ入場者数は938人と前年度より9.3%増えた。催し物の詳細は、P.7～「実施事業一覧」のとおり。

8 県内図書館の動向

26年4月1日現在の愛知県内の市町村は54、図書館設置市町村は48（38市9町1村）、未設置市町村は6（5町1村）、図書館設置率は89%である。県内で図書館業務に指定管理者制度を導入しているのは12館（施設管理のみ導入は愛知県図書館始め2館）である。

9 県内図書館団体等の動向

(1) 愛知県公立図書館長協議会

ア ヤングアダルトサービス連絡会

25年度総会を9月26日に開催した。新規事業として、ヤングアダルト向けのブックガイド

「ティーンのための Aichi Librarians' Choice (あいち・ライブラリアンズ・チョイス) A・L・C あるく」を作成し、愛知県図書館のホームページでも公開している。

イ 図書館ネットワーク研究会

25 年度は、「あいちトリエンナーレ 2013」及び生誕百年にあたる愛知県出身の作家「新美南吉」を共通テーマとしたイベント「@ (アット) ライブラリー」を行った。愛知県図書館のホームページに特設ページを設け、参加館のイベント情報を掲載した。あいちトリエンナーレには 22 館、新美南吉には 26 館が参加した。

ウ 研修会

第1回「図書館を知れば、図書館がもっと好きになる」講師：内野安彦氏

第2回「子どもの成長に絵本がもたらす意味」講師：中村証子氏〔愛知図書館協会との共催〕

第3回「これからの「読書」の話をしよう～いまを生き延びるためのYA」講師：梨屋アリエ氏

第4回「図書館の危機管理－日常のトラブルを法から考える」講師：鎌水三千男氏

(2) 愛知図書館協会

愛知図書館協会では、連続受講形式の研修を行っており、講義と演習の組み合わせを原則としている。25 年度に実施した研修は次のとおりである。

- ・児童サービス研修：全 4 回の連続受講形式。
うち「子どもの成長に絵本がもたらす意味」（講師：中村証子氏）を公開講座とした。
- ・レファレンスサービス研修：全 4 回の連続受講形式。
うち、「図書館員のためのビジネス情報収集講座」（講師：菊池健司氏）を公開講座とした。
- ・資料保存研修：資料保存について実習と講義を組み合わせた研修。
- ・IT研修：愛知淑徳大学の協力を得て、講義と実習を組み合わせた 2 日間の研修。

V 平成 25 年度アンケート調査結果

愛知県図書館では、来館者の利用行動や評価、要望を知るため、17 年度からアンケートを行っている。25 年度は、来館者アンケートのほか、愛知県広報広聴課が実施する県政世論調査の中で、愛知県図書館の利用状況とサービスについての調査を行った。来館者アンケート、県政世論調査（図書館関係分）とも、詳細については、ホームページ(<http://www.aichi-pref-library.jp/>)に掲載している。

1 来館者アンケート調査結果

サービスの重要度と満足度については、最も重視されている「本や雑誌などの量・種類」が重要度 3.45 に対し満足度 3.19 と依然ギャップが大きい。「全般的な満足度」は 3.25 で、24 年度に比べ 0.01 ポイント下がった。

なお、比較のため、県政世論調査と同じ質問もしており、そのうちインターネットを使って図書館へ行かずに受けられるサービスについて利用してみたいと思うサービスはどれか、2 つまで選んでもらったところ、「インターネットで資料を予約して、地元の図書館などで受け取る」が最も多く 40.4%（世論調査は 46.0%）、次いで「インターネットを利用して電子書籍・音楽を楽しめる」が 34.2%（同 37.6%）、「県図書館で所蔵する郷土資料などをデジタル化して、ホームページで見る」が 22.1%（同は 25.0%）と、両方の調査で同じ傾向が見られた。

実施日	11月10日(日)	11月12日(火)	計
配布数	650	750	1,400
回収数	438	493	931
回収率	67.4%	65.7%	66.5%
入館者数	2,044 人	2,109 人	4,153 人

2 県政世論調査の結果

平成 25 年度第 1 回県政世論調査は、平成 25 年 7 月 1 日から 20 日までの間に、愛知県内在住の 20 歳以上の男女 3,000 人を対象に郵送で行われ 1,509 人から回答を得た（回収率 50.3%）。

直接来館のほか県図書館ホームページの情報の利用や市町村立図書館を通じた協力貸出なども含め、県図書館のサービスを一つでも利用したことがあると答えた人は 22.1%、利用したことがないと答えた人は 77.2%であった。県図書館を利用しない理由について 2 つまで回答を求めたところ、「地元の図書館など、他の図書館を利用しているから」が 46.9%で最も高く、次いで「県図書館は遠くて利用しにくいから」が 43.4%、「よく知らなかった」28.5%の順であった。